

# 外国人の子どもは、 もっと**保育園**に入りにくい。



## 可児ミッション

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

# 目次

本事業の趣旨	1
I. 保育プログラム	3
1. 保育内容（通常・延長）	4
2. 保育に関する地域課題	6
II. 保健プログラム	7
1. 歯科検診	8
2. 医師による診察	10
3. 看護学生による健康診断・健康教育	11
III. 就学支援プログラム	13
1. 日本語教育	14
2. 入学準備	15
保護者の声	18
新聞記事から	19
まとめ	20

# 「外国人幼児の育ちを守るネットワークづくり事業」趣旨

## 日本語の壁に阻まれる外国人の親子たち

外国人保護者の中には「入園申込みの仕方が分からない」と、保育園の利用を躊躇する方もいます。それは、日本語で書かれた分厚い『新入園募集要項』を読み解き、5枚ほどの提出資料に記入しなければ、申込みができないからです。日本人の方でも初めてなら戸惑うことは多いと思いますが、ましてや日本語のできない外国人保護者にとっては・・・。

一方、仮にようやく保育園や幼稚園に入園することができたとしても、「言葉が分からなくてなじめずに2ヶ月で退園した」などという例は、枚挙に暇がありません。こうして、不就園の外国人幼児があふれている地域があります。

## ひとり親家庭の子ども、自閉症や難病の子ども

私たちが本事業を通して出会った子どもたちの家庭のうち、7世帯に1世帯はひとり親家庭でした。これは、(単純に比較はできないものの)日本国内平均値の2倍以上に及びます(\*1)。仕事をしなければすぐ生活困窮に陥る可能性が高く、それゆえ最も保育園を必要とするひとり親家庭の保護者が、言葉の壁により保育園を利用しにくいというのは、大きな問題であると考えられます。

また、外国人幼児の中にも、当然、一定の割合で自閉症等の障がいや、難病をもった子どもたちがいます。しかし、3歳児健診で指摘され、医療機関にかかるようになるまでずっと「自分の子育ての仕方が悪いせいだ」と自らを責め続けていた自閉症の子の保護者もいました。言語の違いによって、子育てに関する知識が得にくかったこと、多言語で相談を受け付けている機関が見つからなかったこと等が原因と考えられます。また、ある難病をもつ子どもは、母親の常時付き添いが必要であるため、保育園から受け入れを断られたと、保健所から私たちの所に送られて来ました。

## 不就園のまま過ごしていれば

保育園や幼稚園に通わない不就園状態のまま過ごしていると、例えば定期的な健康診断を受ける機会が得られず、虫歯等の疾患や障がいの早期発見が困難になり、適切な対応が受けにくくなります。あるいは、規則正しい集団生活を送る経験をせず、日本語に触れる機会もないまま小学1年生になって、地域の小学校に通い始めた場合、学校になじめず不登校になることもあります。また、保護者が子育てに関する相談をする相手が限られ、独りで悩みを抱えることが増えれば、そのストレスが子どもに向かって、場合によっては虐待を生む要因にもなりかねません。

## 健やかに育ち、自信をもって日本で生きていくために

言葉の壁に阻まれる外国人の子どもたちが、ここ日本で健やかに育ち、自信を持って生きていくことができる社会を目指したいと私たちは考えています。その思いに賛同してくださった地域の多様な方々とネットワークを築き、スクラムを組みながら、この1年間、本事業を展開してまいりました。この報告が更なるネットワークの拡がりを生み、それがやがて日本社会全体で外国人の子どもの育ちを守るための仕組みの構築に資することとなれば、それ以上の喜びはありません。

\*1 『ひとり親家庭等の現状について』(2015年4月20日、厚生労働省)より

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000083324.pdf>



# I. 保育プログラム



# 1. 通常保育・延長保育

- 目的： 不就園状態を余儀なくされた外国人幼児に適切な育ちの環境を保障する。
- 内容： 通常保育、延長保育（可児今渡教室のみ）、送迎バス運行、保護者相談対応、他
- 担当： 日本人保育士・看護師等、フィリピン人バイリンガルスタッフ、ボランティア等
- 場所： 右頁参照
- 対象： 外国（主にフィリピン）にルーツをもつ不就園の3-6歳児

## 【1日のスケジュール】 (\*1)

- 6:00 送迎バス出発
- 7:00 早朝保育
- 10:00 通常保育
- 12:00 昼食（お弁当）
- 13:45 降園開始
- 14:00 延長保育（おやつ・午睡）
- 19:30 送迎終了



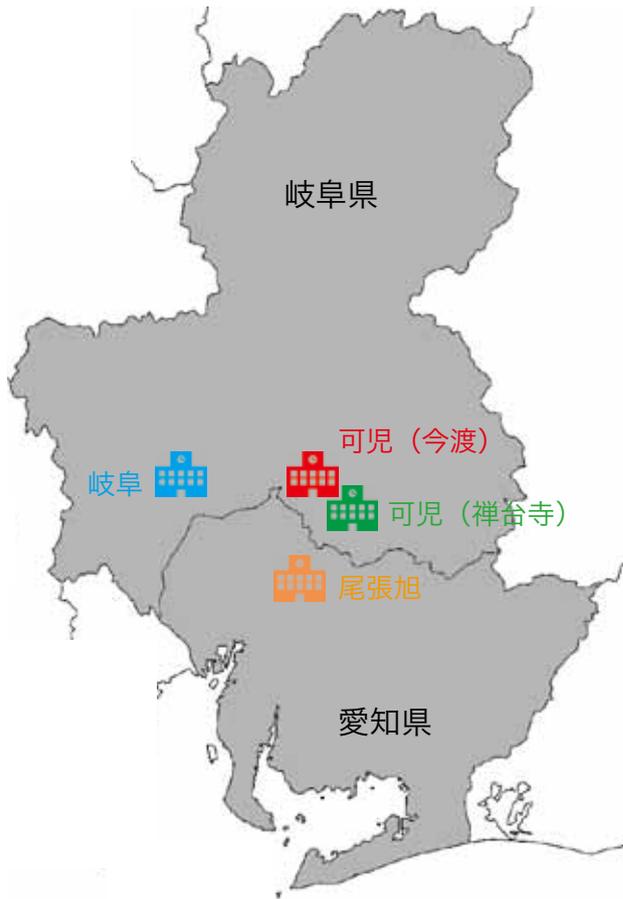
不就園状態にあった全96人の外国人幼児を受け入れ、保育しました。日本人保育士を中心に日本語で日々の生活を送り、バイリンガルスタッフは母語でそのサポートをします。

可児（今渡）教室では、保護者の早番シフトの出勤時間に合わせ、午前6時から送迎バスを出発させて早朝保育を行い、保護者が仕事を終えて帰宅するまで預かりを続けました。



長時間保育の子どもは、午睡をしたり（左写真）、おやつを食べたりしながら、のびのびと保育の時間を過ごしました。

\*1 早朝保育および延長保育は、可児（今渡）教室のみ実施。他の教室は通常保育のみ。



在籍外国人幼児数

全 **96** 名 <sup>(\*1)</sup>

### 可児（今渡）教室

場 所：岐阜県可児市今渡  
 対 象：5-6 歳児（可児市／美濃加茂市在住者）  
 時 期：2015 年 4 月～ 2016 年 3 月  
 在 籍：18 名

### 岐阜教室

場 所：岐阜県岐阜市  
 対 象：3-6 歳児（岐阜市／瑞穂市在住者）  
 時 期：2015 年 4 月～ 2016 年 3 月  
 在 籍：11 名

### 可児（禅台寺）教室

場 所：岐阜県可児市下恵土 <sup>(\*2)</sup>  
 対 象：2-5 歳児（可児市／美濃加茂市在住者）  
 時 期：2015 年 9 月～ 2016 年 3 月  
 在 籍：53 名

### 尾張旭教室

場 所：愛知県尾張旭市  
 対 象：3-6 歳児（名古屋市中区等在住者）  
 時 期：2015 年 4 月～ 2016 年 3 月  
 在 籍：14 名

\*1 1ヶ月以上在籍した幼児の数。ただし、内 31 名は、他の保育園への就園や帰国等により中途退園。

\*2 所在地は可児市下恵土だが、通称が禅台寺であるため、禅台寺教室という呼称を用いていた。

## 2. 保育に関する地域課題

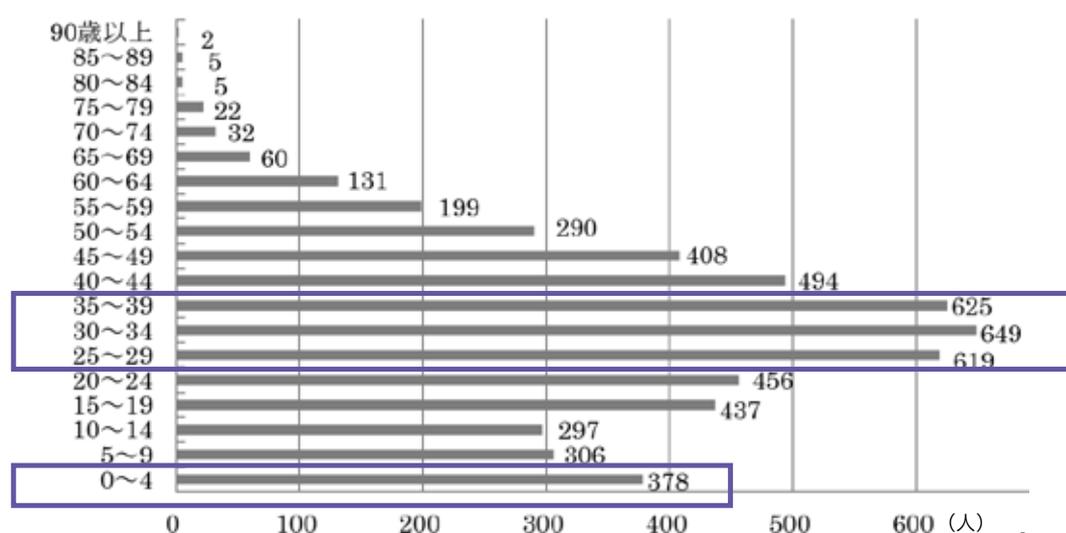
# 外国人住民の平均年齢 30.5 歳

可児ミSSIONの本部がある可児市の外国人住民は平均年齢 30.5 歳。移住労働者が大半で、働き盛りの世代です。そして、同時に子育て世代でもあります。下のグラフにある通り、最も人口の多い世代が 30 歳前後で、その子どもに当たると見られる 0-4 歳の幼児も多くなっています。働きながら幼児を養う世帯が多ければ、すなわちその分、保育ニーズも高いはずです。

しかし、可児市は 3 歳未満で待機児童が出るほどの "保活" 激戦区 (\*1)。また、3 歳以上児についても、市中心部のアクセスが良い園には、ほぼ空きが無い状況です。日本人でさえ保育園を探すのが難しいのに、日本語の分からない外国人保護者にとっては、なおさらでしょう。こうして多くの幼児が不就園を余儀なくされているのが現状です。さらに、障がいのある子どもなど、特別なニーズをもつ外国人幼児の受け皿の未整備も深刻な課題です。

これは、まだ今では可児市など外国人集住地区でしか顕在化していない課題かもしれません。しかし、将来日本が外国人の労働力にさらに頼ろうとするのであれば、必ず全国的に向き合わねばならなくなる課題でしょう。外国人幼児の保育の受け皿整備は、急務であると考えます。

可児市 年齢別外国人居住者数 (\*2)



(2015年4月1日現在)

\*1 「平成 28 年 1 月 1 日現在の県内保育所等利用待機児童数」(岐阜県公式ホームページ) 参照  
[http://www.pref.gifu.lg.jp/event-calendar/c\\_11236/taikijidou2801.html](http://www.pref.gifu.lg.jp/event-calendar/c_11236/taikijidou2801.html)

\*2 『可児市多文化共生推進計画(案)2016年度~2019年度』より

## II. 保健プログラム



# 1. 歯科検診

- 目的：虫歯を発見し治療に繋げるなど、口腔内の健康を守るため。
- 内容：虫歯・歯並び・噛み合せ等の検診。結果を家庭に伝え、必要に応じて通院を促す。  
また、子どもに歯磨き指導をしたり、家庭に食習慣見直しの提案をしたりする。
- 担当：水谷雄樹歯科医師ほか
- 場所：全教室（可児今渡／可児禅台寺／岐阜／尾張旭）
- 時期：1回目：2015年6～7月      2回目：2016年2～3月
- 対象：1回目：51名                      2回目：56名

## 寄稿

水谷歯科医院院長 水谷雄樹 歯科医師

可児・今渡教室については、この4月に小学校入学を控えた児童では2名を除いて虫歯がありました。現在の日本の子どもたちはあまり虫歯がありません。まったく虫歯になったことがない子がこの年代ですと半数です。未治療の虫歯がある子が2割程度で、まったく治療がなされていない子は5%です。ずいぶん違いますか。

しかし、20年程前までの日本同じように虫歯の子が多くいました。40年ほど前ではほとんどすべての子が虫歯で、生えているほとんどすべての歯が虫歯になっている子も少なくありませんでした。だんだんと良くなってきたのです。

どうせ抜け代わる乳歯だから、虫歯の治療しても無駄？ いえ、乳歯はけして無駄な歯ではありません。母乳から自分で噛んでものが食べられるようになるために重要です。また、噛むことによって知能の発育や体の発育にも大きく影響していると言われています。

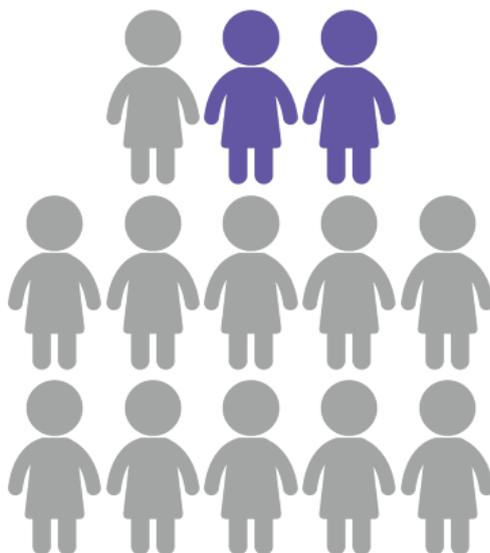
虫歯をそのままにすると歯の神経が虫歯に侵されます。こうなると痛みが出たりしますが、さらにそのままにすると神経は死んでしまいます。そして歯茎が腫れるようになります。

時としてひどく腫れたりします。熱が出ることもあります。稀ではありますが入院が必要となることもあります。

神様は無駄なものを人間に与えてはいないのです。いい永久歯を生えさせるためにはいい乳歯が必要です。虫歯があると虫歯菌が増えて永久歯も虫歯になりやすくなります。また、虫歯になるような食生活が全身にとっていいはずがありません。

この子は虫歯が多い。しかし、それは乳歯です。6歳ぐらいから、早い子だと5歳ぐらいから永久歯が生えてきます。永久歯を虫歯にしないようにしましょう。それには、虫歯のある子は少し食生活を改めましょう。（保護者に宛てた手紙より抜粋）

# 「虫歯なし」 2人だけ



可児・今渡教室の小学校入学を控えた年長児 13 人のうち、11 人から虫歯（または要観察の歯）が見つかりました。「虫歯なし」は 2 人だけ。中には、虫歯が 10 本ほどある子も複数見られました（下写真）。

しかし、1 回目の検診結果の連絡とともに治療の勧告をしたところ、後日行ったアンケートでは 69% の保護者が「治療を開始した」と答え、1 人あたりの虫歯の平均本数も 1 回目 3.4 本から 2 回目 1.6 本へと半減しました。保護者や子どもの意識は、少しずつ変わってきています。



## 2. 医師による診察

---

目的： 医師の診察を受け、健康状態を把握するため。

内容： 聴診・触診・視診等による診察

担当： ひまわりファミリークリニック 平田亮 医師（可児今渡教室、可児禅台寺教室）  
愛知医科大学看護学部 西川和裕 教授／医師（尾張旭教室）

時期： 2016年2月

対象： 可児今渡教室／可児禅台寺教室／尾張旭教室の園児

本事業対象者の住むファミリークリニックの医師や、医科大学の先生にご協力を仰ぎ、子どもたちの診察をしていただきました。子どもたちの中には、経済的困窮から国民健康保険の支払いが滞り、無保険状態にある子も少なくありません。あるいは、言葉の壁を感じて、病院などにかかることを躊躇する保護者もいます。そのようなケースでは、病気や怪我の時にも「できるだけ我慢」という選択をすることになります。



しかし、子どもの健康に不安を抱えている保護者は少なくありません。今回の診察の際には、事前に保護者から集めた相談事に、先生方からアドバイスをいただきました。「うちの子は鼻血が出やすいんですけど大丈夫でしょうか」といった質問にも、丁寧に答えていただきました。

言葉の壁で医療機関へのアクセスはおろか、情報入手さえままならないことが多い外国人保護者に、子育ての安心を与えることもこの取り組みの重要な目的の一つでした。

### 3. 看護学生による健康診断・健康教育



- 目的 : 子どもの発育や健康の状態を把握し、健康に対する意識を高めるため。
- 内容 : 身体測定、尿検査、視力検査、健康教育、他
- 担当 : 愛知医科大学看護学部学生 (引率: 同学部 坂本真理子教授)
- 場所 : 尾張旭教室
- 時期 : 2015年9月～11月
- 対象 : 尾張旭教室の園児 10名程度

#### 寄稿

愛知医科大学看護学部 坂本真理子 教授

看護学部の学生たちと、尾張旭教室の子どもたちの健康診断と歯磨き指導などの健康教育を行わせていただきました。最初は緊張気味だった学生たちも、元気で人懐っこい子どもたちのおかげで、すぐに馴染むことができ、楽しい交流の機会になりました。日本語がまだよくわからない子どもたちには、フィリピン人先生のお力を借りながらも、どうしたら子どもたちに伝わるか、学生たちは説明の媒体や方法を工夫して取り組んでいます。この教室での健康支援は、学生たちにとっては看護の力を磨くまたとない機会となっています。

健康診断の結果では、健康な子どもたちがほとんどでしたが、就学前の幼児期は健康習慣を身につけるうえで重要な時期です。保護者の方たちと、こうした子どもたちの育ちをお伝えし、ともに子どもたちの成長を喜び合うような機会になってほしいと思っています。たとえば、今後は母子健康手帳などに子どもたちの成長記録を添付できるような工夫をするなど、多忙な保護者の方とも健康診断の結果を共有できる方法を検討することが課題だと思っています。

今後も継続的に関わらせていただき、子どもたちの健康支援について、関係者の皆様とともに考え、取り組んでいきたいと思っています。

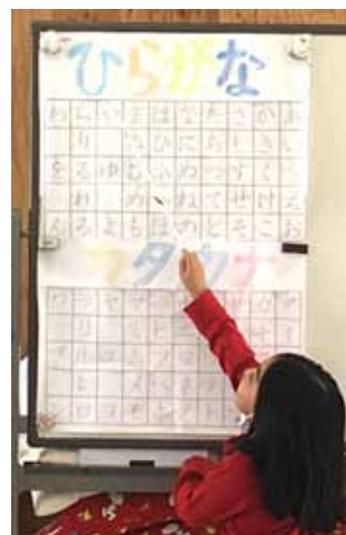


# Ⅲ. 就学支援プログラム



# 1. 日本語教育

- 目的：子どもが自信をもって小学校に就学できるようにするため。
- 内容：楽しみながら、聞く・話す・読む・書くの4技能をバランスよく身に付ける。
- 担当：日本語教師（日本語教育能力検定試験合格者）、保育士、バイリンガルスタッフ等
- 場所：可児（今渡）、岐阜、尾張旭
- 時期：通年（日々の通常保育時間）
- 対象：全教室の園児（就学を間近に控えた年長児が中心）



不就園のまま小学1年生に上がると、とつぜん言葉の分からない環境に放り込まれ、教室で座って他の子と一緒に勉強しなければならないということになり、学校生活に不適應を起こして不登校になる外国人児童も日本全国に少なくありません。1年生になってから日本語を身に付けていけばいい、ということでは遅すぎるため、年長児たちは夏頃から本格的な日本語学習に取り組みました。絵本の読み聞かせで絵を見ながら物語を理解したり、カードで遊びながらひらがなを覚えたり、日本語の歌を皆で毎日歌ったりしながら、楽しく日本語に触れていきました。子どもたちは覚えが速く、どんどん日本語が分かるようになっていき、最終的には、ひらがなを全て身に付け、1年生のこくごの教科書を自分で読めるようにまでなった子たちもいました。

一方、言語学的には母語の十分な下地があって初めて第二言語の習得が可能になると言われています。そこで、バイリンガルスタッフによる英語・フィリピン語の授業やフィリピン文化を学ぶ時間も設けました。



## 2. 入学準備

学校、教育委員会をはじめ、地域の諸機関と連携を図りながら、年長児の小学校入学準備を進めました。

右写真は、地元の自動車学校で、市警察の協力を得ながら、横断歩道の渡り方をはじめとした交通ルールを学習しているところです。

左ページの日本語学習や、次ページの小学校との連携プログラムなどを経て、可児今渡、岐阜、尾張旭の各教室から計 21 名の 6 歳児が、2016 年 4 月、晴れて小学 1 年生となります。

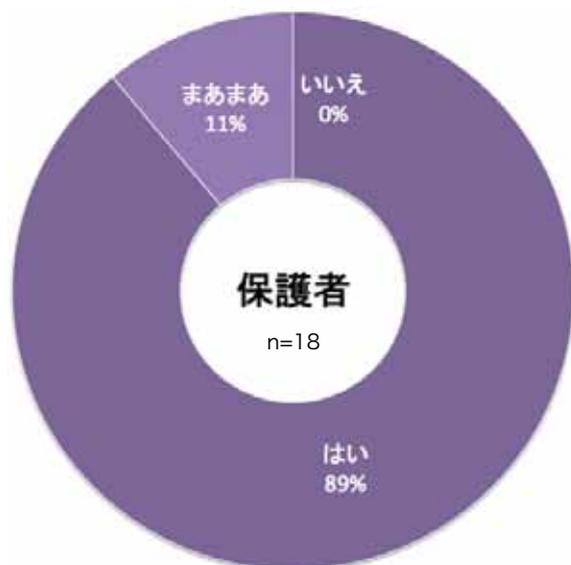
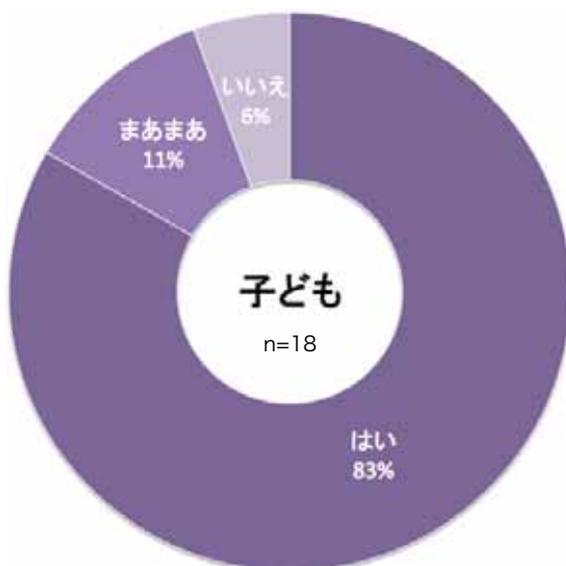
下記のアンケート結果を見れば、子どもも保護者も、個人差はありますが、概ね自信をもって入学できると感じているようです。



自動車学校での交通安全教室

### 自信をもって日本の小学校に入学できると感じますか？

(就学直前の 6 歳児とその保護者へのアンケートより)





## 幼保小連携の一環 ～可児ミッションとの連携に思う～

可児市立今渡北小学校 多文化共生主幹  
山下啓子 教諭

義務教育において、小学校のスタートは、とても重要である。小学校入学時にスムーズなスタートをきることができる児童は、大方6年間の小学校生活をスムーズに送ることができることにつながっていく。小学校1年生という義務教育期の始まりは、それほど重要なのである。

では、スムーズなスタートをきるために何が必要なのだろうか。それは、就学前の子どもたちの実態をあらかじめつかみ、できる限りのフォローアップをしていくことである。

100%のフォローができるわけではない。しかし一人一人の実態を明らかにし、子ども掴みをしたり、家庭環境をあらかじめ把握しておいたりしておくことは大変重要である。

特に外国人保護者にとって日本の小学校というものは、大きな不安を抱えている。反対に忙しすぎて、学校に目が向かない保護者もいる。そのような保護者、児童に対して可児ミッションとどのような連携をし、どのような成果があがったのかを以下に述べる。

### ①可児ミッションへの授業参観

可児ミッションのスタッフと連携を密にし、自分の目で子どもたちの実情を見ることが重要であった。その参観は、一人ではなく、学校職員が複数で行くことに意味がある。様々な先生のフィルターで子どもたちの実情をつかむことはとても重要である。昨年度は、2、3月時にも可児ミッションに通室した子どもたちがいたため、その参観は、大変有意義なものであった。その実態掴みをもとにクラスを配慮することもでき、スムーズなスタートをきることに繋がった。

また小学校職員と面識があると言うだけでも、小学校入学時の子どもたちと保護者の安心感は違うのだと感じている。

### ②就学時健診参加への示唆

就学時健診がどれだけ大切なものであるのかを可児ミッションから保護者に伝えていただいた。学校から文書配布をするだけでなく、全部の家庭に時間と集合場所を確認し、確実に参加してもらうよう働きかけていただいた。その結果、可児ミッションに通う子どもの全部の家庭が時間前に就学時健診に参加することができた。

数年前は、就学時健診に参加できない保護者が多くいたことを考えると飛躍的な進歩であると考え  
る。

就学時健診の中では、学校生活において大切なこと、持ち物について通訳さんを介し、詳細に話す。  
そのような機会を逸さないことが重要である。

### ③可児ミッション児童の小学校参観

小学校に入ると、座学がとても多い。45分じっと座っていなくてはならないこと、先生の話のだ  
まってじっとよい姿勢で聞かなくてはいけないことは、伝えている。聞くだけではなく、それを見る  
ことがとても重要であると考え、昨年度から参観を行った。その中で子どもたちの様子を見ること  
ができることも目的の一つである。

今年度、保護者の参観も募ったが、参加者はいなかった。今後保護者の参観を事前に推奨していく  
ことが大切であると考え。

以上の事案からも、可児ミッションが小学校に果たした役割は、とても大きい。不就園の児童が小  
学校に突然入ってきたと考えると、上記の内容はすべて小学校に入ってきてからということになる。

数年前から小学校が可児ミッションと連携をしてきた結果、上記のような成果が上がったことは、  
小学校教育のみならず義務教育全般に大きな役割を果たしていると考えている。

今後も、より密な連携をはかり、外国人児童のために何ができるのかを考えていきたい。



小学校で行われた就学時健診の際の保護者説明会

(写真提供：今渡北小学校)

# 保護者の声

本事業終了前に、受益者である子どもたちの保護者にアンケートをとりました。以下の2つの質問に対する回答を抜粋して掲載します。子どもの心身の健やかな育ちを喜ぶ声がある一方、育ちに不安を覚える声が多かったことも事実でした。これからの活動の方針を考える上で、大変重要な示唆が与えられたと感じています。

## Q1. 本事業は、あなたの子育てにおいてどのように役立ちましたか？

子どもが**自信をもてる**ようになり、他の子と喋ったり遊んだりできるようになったことが良かったです。

子どもは恥ずかしがり屋ですが、でも彼はクラスに参加できているようです。もう日本語も話しています。彼は可児ミッションに行くのが好きだ、**大好きな友だちがたくさんいるから**、と話してくれています。

フィリピン人の先生がいるから、分からない時には**母語でコミュニケーションがとれる**ことが特長だと思います。学校行事などのことをフィリピン人の先生がちゃんと母語で説明してくれていることが大切です。

日本人と話す時に日本語で話せるようになりました。たとえば病院に行った時、**お医者さんや看護師さんの話を自分で理解**できるようになりました。

親の私たちは日本語がしゃべれないし、書けないし、読めないの、可児ミッションが**日本語を勉強させてくれる**ことがよかったです。

子どもが可児ミッションに行っている間、子育てをする**母の私も働いたり用事を済ませたり**できるようになったので、大きな助けになっています。

子どもは少しずつ英語と、日本語も身に付けています。そして何より、**友だちを大切に**する気持ちを育てています。

## Q2. 子育てについて、心配していることはありますか？

子どもがあまり野菜を食べないので、日本の学校に通わせると**給食に野菜が入っている**から心配。  
**病気にかかった時**に心配になります。

他の子たちとの接し方がうまくいかないことがあるので、その部分を育ててもらいたいです。

日本語が上手で、読んだり書いたりできるが、**英語ができなくなっている**ことが心配。

一番大きな心配は、(母語でも)あまり**ちゃんと言葉が出ない**ことです。

## フィリピン人多く住む可児の保育施設

### 言葉の壁をなくし

### 就園・就学を応援

フィリピン人向けの幼児保育を手がける施設が可児市今渡にある。フィリピン人の居住者が年々増える県内において、可児市内は最も多い。日本の幼稚園や保育園に言葉の問題などでなじめない子どもを受け皿となり、就園・就学できない子どもを早期になくすことが目標だ。

クリスマスイブの昨年12月24日、可児市福祉センターのステージに3〜6歳の子ども約40人が立った。全員フィリピン人。流暢な日本語で童謡「あわてんぼうのサンタクロース」を合唱し、盆踊りもした。昼食がふるまわれ、日本人を含む参加者を楽しませた。

フィリピン人の幼児保育施設「可児ミッション」が企画した地域住民とのクリスマス交流会。可児ミッションはキリスト教系団体を母体に、2012年から同市で幼児保育を本格的に始めた。認可外保育施設として平日、日本語を話すことができるフィリピン人らが先生として日本語も教えている。

6歳の長女を通わせているクイソン・マウリン・ダヤオさん(40)は、当初、日本の保育園に長女を入園

させたが、言葉の壁などからなじめずに約2カ月で退園させた。ダヤオさんは「ここでは友達もできて日本語も勉強できる。ほんとうにありがたい」と話す。

リーマン・ショックをきっかけに減少した県内のブラジル人労働者と入れ替わるように、フィリピン人は増加傾向にある。昨年6月末時点で9782人。国籍別では中国に次ぎ2番目に多い。なかでも可児市は総人口の2%超にあたる2565人(昨年12月1日現在)で、県内の市町村別で最多だ。

一方で、語学力の問題から日本の学校や保育園になじめない保護者と子どもも増えているとみられる。可児ミッションの総主事代行の山田拓路さん(30)は「幼児教育で集団生活や日本語を覚えられないと、小学校



日本語でクリスマスソングを歌う子供たち。昨年12月24日、可児市今渡

での不登校や子どもだけ帰国して家族の離散につながるってしまう」と施設の意義を語る。

ただ、運営は資金面の課題に突き当たっている。保護者の多くは派遣労働者。月謝を払えなかったり、滞納したりする家庭もある。「最低限、目が行き届く範囲の人手しか雇えない。来年も続けられるかどうかと

いう綱渡りの運営」とい

う。幼児保育のほか、児童・生徒向けの就学支援も行い、岐阜市内でも規模は小さいが同様の施設を開いた。山田さんは「就学・就園できない子どもをなくすことが目標。地域との交流行事も増やして、偏見もなくせれば」と話している。

(山岸玲)

# まとめ

## 96名の不就園外国人幼児との出会い

本事業を実施した約1年間で、岐阜県及び愛知県に居住する外国人幼児96名と出会いました。それだけの数の子どもたちを不就園状態から救い出すことができたのは、本事業における一つの成果であったと考えています。しかし、それと同時に、不就園児をそれだけ多く生み出してしまふ地域の課題が改めて浮き彫りになったと言うこともできるでしょう。

## 多くの人に支えられるネットワーク

今回の事業では、小学校や大学、医療機関、行政、NPO、企業など多様な機関を通して、実に多くの方々と協働させていただくことができました。私どもの働きに共感くださり、進んでご尽力くださった皆様に改めて感謝の意を表したいと思います。本報告書には掲載されていない方々も含め、これからも地域全体で手を携えながら、言葉の壁に阻まれる外国人の子どもたちが、多くの人に支えられながら、日本の中で健やかに育ち、自信を持って生きていくことができるような社会を実現したいと願っています。

## 岐阜県の施策として続く

本事業において取り組んだ「外国人幼児の育ちを守る環境の整備」という地域課題については、岐阜県がその解決の必要性を認め、2016年度の施策として予算化してくださいました。大変ありがたいことです。しかし、限られた予算の中では、当然ながら全ての地域の子どもたちを対象とできるわけではありません。県との協働を進めつつも、私どもは、まだ不就園状態を余儀なくされたままの幼児たちとこれからも積極的に出会い、上記のネットワークを活かしながら、より広域での課題解決に丁寧に向き合っていきたいと考えています。

## たとえ微力であっても

1回の寄付、1日のボランティアで社会を動かすことは確かに難しいかもしれませんが、しかし、「私たちは微力かもしれないが、無力ではない」という有名な言葉があります。

今回、ネットワーク構築を目指して事業を実施し、多くの方々のお力を借りることができました。私どもだけでは未だ微力に過ぎないかもしれませんが、しかし、皆様お一人おひとりの力をお借りし、集めることで、いずれ大きなうねりを引き起こしていきたいと願うものです。将来、遅かれ早かれ外国人との共生を進めて行くことになるであろう日本社会のため、そして何より、今を生きる一人ひとりの子どもたちの幸せと健やかな成長のために。

どうか、時間の寄付（ボランティア）で、お金の寄付で、あなたのお力をお貸しください。よろしく願い申し上げます。

<http://kanimission.org>

可児ミッション WEB サイト

**1 日 33 円～**

クレジットカードによる寄付のお申込みをしていただけます。

ボランティアも受付中。

<https://www.facebook.com/kanimission/>

可児ミッション Facebook ページ

**「いいね！」**

を押してフォローしていただければ、日々の活動の様子をお届けします。

2015 年度  
「外国人幼児の育ちを守るネットワークづくり事業」  
報告書

---

発行 2016 年 3 月 31 日

可児ミッション

〒 509-0207

岐阜県可児市今渡 1012-1

Tel / Fax: 0574-58-0241

E-mail: [akm.chubu@nskk.org](mailto:akm.chubu@nskk.org)

<http://kanimission.org>

